

## T. N. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

オーストラリア留学の場合、アメリカやイギリスへの留学とは違い、2 月末からの留学なので、留学決定から出発までの時間がとても短く感じました。語学勉強は英語の文庫本を読んだり映画を英語字幕でみたりと、楽しんで勉強できるように工夫しました。私の場合、出発までの時間が 3 ヶ月弱程しか無く、ビザ申請や留学先の寮の手続きなどの準備に追われている間にいつの間にか 2 ヶ月が過ぎていました。オーストラリアの学生ビザは一般的にインターネットで申請します。そして申請後に健康診断を行い、病院から直接診断結果が送信されます。しかし私の場合、申請処理中に病院へ自動で送信されるはずの私の病歴などを含んだデータが送信されず、少し処理に時間がかかってしまいました。結局は病院側の手違いだったのですが、病院への確認は常に取っておくことが必要だと思います。更に健康診断の予約待ちも 3 週間程あり、ビザの許可が下りるのが間に合うのか少し不安になったのですが、健康診断後から私のビザの許可が下りるまでの期間は 1 週間程だったので、出発の 1 ヶ月程前には許可が下りていました。

#### ② 現地到着後

空港からの移動手段はグリフィス大学のスタッフによる送迎でした。到着口を出てすぐのところでスタッフがお出迎えしてくれました。そして、そこで合流した他の留学生と共にワゴン車に乗り込み、それぞれのキャンパスへ送られます。後々判明したことなのですが、ブリズベンへのキャンパスへ行く場合もゴールドコーストの空港までお迎えに来ていただけるらしいので、もし関西空港から出発する場合、経済的にも時間的にもゴールドコーストへの直通便を使ったほうが便利だと思います。ブリズベン空港からネイサンキャンパスまでの車による移動時間は 40 分程度でした。そしてグリフィス大学では留学生専用のオリエンテーションも設けられていました。私の場合、留学生のオリエンテーションも、オー・ウィークと呼ばれる現地の生徒も参加するオリエンテーション・ウィーク内の 1 日に含まれていました。オー・ウィークは、大学で様々なオリエンテーションが実地されたりクラブ活動などの宣伝ブースが並んだりなどと、すごく盛り上がる一週間です。そしてその一週間内に寮でも様々なイベントが用意されており、学校を知ると同時に友達を作る凄くいい機会にもなります。寮生専用のパーティーが開かれたり寮の塔によってチームに分けられ競い合うといったイベントなどが開かれたりし、とても楽しかったです。もしグリフィス大学への留学を考えている方がいらっしゃるのならば、出来るだけオー・ウィーク前に現地到着し、参加することをお勧めします。

#### ③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

語学研修期間なし。

#### ④ 正規科目履修期間

##### ◆大学の施設・環境について

大学での施設などはすごく整っており、何不自由無く学生生活を送ることが出来ました。自習に便利な 24 時間空いているパソコン室や、図書館も平日なら夜 10 時まで開放されています。

#### ◆ 履修科目

私は本当に純粋に少しでも興味が湧いた教科を選んで履修したのですが、グリフィス大学の場合、まず始めの履修登録前にインターナショナルセンターの交換留学生係で、とれる授業の許可をもらわないといけません。そして私の場合、許可の下りた授業と同志社女子大学で交換出来る種類などの単位などを照らし合わせ、最終的に取る教科を決定しました。

##### Academic English

この授業は簡単に言ってしまうと ESL です。しかし、英語力に自信ある人にはあまりお勧め出来ない教科かもしれません。私はあまり何も感じなかったのですが、退屈だと言ってあまり来ない人も沢山居たので、その時間があるならもっと興味深い教科をとってもいいのかなと思いました。

##### Effective Writing

ライティングにおいて、とても為になる授業でした。大学で一番必要なエッセイなどの書き方をベーシックから教えてくれるのですごく役立ったと思います。毎週ライティングの宿題が出たので、エッセイなど英語の長文を日常的に書くことにも慣れさせてくれました。

##### An Introduction to Screen Analysis

日本でも似たような内容の授業を取っていたので受講してみたのですが、オーストラリアの中で一番楽しめた授業でした。クラシックフィルムを中心に毎週違うフィルムを勉強するのですが、映画を違う視点から見るということを学びました。

##### Programming I

単なる興味本位で取ってしまった授業なのですが、本当に苦勞しました。今となっては良い思い出ですが、文系のひとにはあまりお勧めしません。未経験者用のはずなのですが、周りの生徒は何かしら経験のある人達が多く、そのギャップにも悩まされました。しかし先生はとてもいいかたで本当に良くしてくれたのを覚えています。

##### Great Books B

毎週のリーディングの量がすごくたくさんある授業でした。2週間で300ページほどの本を読んだりするなど始めは少し苦勞したのですが徐々に慣れていき、この授業のおかげで読書するスピードも少しは早くなったような気がします。エッセイの採点などは文学の授業なのでやはり厳しいですが、とても為になる授業でした。

##### An Introduction to Asia

この授業は討論が多く含まれる授業ですごく興味深かったです。オーストラリアの生徒や他の国々の生徒が私自身の生まれた地アジアや日本について、真剣にどういう考えを持っているのかを知るととても良い機会になりました。とても驚いたのが、現地の生徒が想像以上にアジアのことについて沢山のことを知っているということでした。

##### History and the body

この授業も最も大変な授業の一つでしたがとても為になり興味深い授業でした。西洋の歴史において医学がどう発展してきたかを学ぶ授業なのですが、専門用語やリーディングの量が多かったのを覚えています。しかし、凄く興味深い分あまり苦にはなりませんでした。

##### An Introduction to Marketing

これも興味本位で取った授業だったのですが、この授業はグループワーク中心の授業でした。1学期間を通し、マーケティングがどういうものなのかということを知り、学期終わ

りにグループでマーケティング・プランを提出します。私の今回とった授業の中で一番グループ・ワークを要求され、チームメイトと合う時間が合わず少し大変だったのですが、とても楽しい授業でした。

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

1 学期目はクラブ活動の参加などに少し躊躇したのですが、2 学期目からはフリスビーを使って行うオルティメイトという競技をおこなうクラブに少しの間参加していました。その他にもサッカーやネットボールなど色々と友人達は参加していたので、応援にはよく行っていました。更に大学ではジャパクラブというクラブがあり、日本に興味のある学生と日本人の交流の出来る場なども設けられています。ボランティアとは呼ばないのですが、日本語の授業を取っている友人達の論文を見たりスピーチを手伝ったりということは日々行っていました。その代わりに、相手も英語について何でも聞いてねといってくれ、とても助けになりました。

#### ⑥ 現地での住まい

グリフィス大学では、寮は大まかに 2 種類に分けられます。1 つ目は私の住んでいたキッチン、トイレとシャワーをシェアするフラットタイプの寮、そしてもう 1 つは 3 食付きのシャワーなどが共同のワンルームタイプの寮です。私は自炊がしたかったのでフラットタイプを選びましたが、後々聞いた所、ワンルームタイプの寮はすごく物音がうるさいとのことでした。食事内容は面倒な時は外へ食べに行ったりインスタントラーメンなどでまかなっていましたが、時にはフラットメイトと一緒にご飯を作ったり、友達をよんで一緒に作って食べたりなど、自炊も楽しく出来たのであまり苦にはなりませんでした。通学距離もキャンパスによりますが、ネイサンキャンパスの授業を受講した場合、約徒歩 5 分ととても近く、日本で通学時間が 2 時間程掛かる私にとっては天国のようでした。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇の過ごし方は様々あるとおもうのですが、冬休み（日本の夏休みです）には私の家族と親友がオーストラリアに遊びにきてくれました。ラッキーなことに観光地のゴールドコーストもとても近かったので、母の運転でゴールドコーストへ遊びにも行きました。その他にも短い 1 週間休みが毎学期設けられており、私はシドニーへいったり友人の地元の街へ遊びに行ったり、色々な場所へ旅行に行きました。シドニーはとても大きな街なのですが、とても綺麗な街でもありました。ダーリン・ハーバーは本当に穏やかでシドニーの中でもお勧めのスポットです。そして、友人の地元であるニュー・サウス・ウェールズ州にあるバリナという街へも遊びに行ったのですが、自然にかこまれたとても素敵な街でした。その街は海沿いにあり、海沿いのカフェで朝ご飯を食べていると遠くのほうにクジラやイルカが見えたりするなど、大阪では絶対に味わえない景色に本当に感動しました。バリナの夜空はすごく綺麗で沢山の星で覆われていました。バリナは今まで訪れた街の中でも、私の大好きな街のひとつになりました。

#### ⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

そこまでに真剣に取り組んでいたことはなかったのですが、就職活動の情報をメールによって送っていただけるサイトへの登録や、インターネットや本で調べられる程度の簡単なリサーチはおこなっていました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことは本当にたくさんあるのですが、やはり一番は異文化との出会いです。この留学を通して、私はオーストラリアの人々を始め、沢山の様々な文化背景を持つ人々と知り合うことが出来ました。私はとてもラッキーなことに、出会う人みながとてもいい人達ばかりで、ただ毎日を皆と過ごしているだけでとても楽しい日々を過ごすことが出来ました。そして最も思い出に残っているのは、私の21歳の誕生日です。始めは誕生日パーティーなどする予定もなく、ごく普通の1日を過ごそうと思っていました。しかしオーストラリアでは21歳は特別な誕生日のひとつらしく、人に会う度に「誕生日は何をするの?」と聞かれ、普通に過ごすと言うと、絶対に何かした方がいいと説得されました。誕生日パーティーなど今まで開いたことも無く、正直誰も来てくれないじゃないかと心配していた部分もあったのですが、友人達のおかげで最高の誕生日を過ごすことが出来ました。私の誕生日に変わる午前0時に、仲のいい友人二人がサプライズでケーキを部屋のドアの前まで持って来てくれたり、違う友達はディナーに連れて行ってくれたりもしました。その後私のフラットでパーティーをしたのですが、プレゼントの中には私が今まで飲んだことがないと言ったことを覚えていたらしく、日本酒も含まれていました。想像以上にたくさんの人が私の誕生日を祝ってくれ、きっと何もせずに誕生日を過ごすだろうと思っていた誕生日とは全く異なるものになりました。その日にみんなからもらった誕生日の寄せ書きやメッセージカードは、一生大切にしたい思い出になりました。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中最も苦労したのはフラットでの共同生活でした。普段はとくに問題など何も無かったのですが、私のフラットメイトは時折パーティーを開くのが好きな人達で、平日でも構わずパーティーを開き、朝方まで音がうるさく寝つけない日も珍しくありませんでした。静かにしてほしいとお願いしにいても相手は酔っぱらっており、全く聞こうとはしませんでした。そんなことがあった翌日、毎回話し合いをするのですが、1年を通して全く態度が変わることはありませんでした。人間的にはみないい人達だし、話し合いをする度に次はきっと大丈夫と思い私は一年中フラットを変えなかったのですが、今は2回目がおきた時点で変えるべきだったのだと思っています。私が病気で熱があることを知っていても大音量で音楽をかけ沢山の友達をよんでドンチャン騒ぎをしたり、私や他のフラットメイトが翌日テストなどを控えていたりしてもおかまいなしでした。始め、私がきつと気にし過ぎなのだと思っていたのですが、明らかに生活に影響が及びますし、一度話し合いをもったなら少くくは理解を示すべきだと思います。更にパーティー後も共有スペースの片付けをしないまま何日も過ごしたり私や他の人の食器を割ったりなど、細々したことですが毎回起きてしまうとすこしいらいらしてしまいました。他の人と住むということが大変なことに初めて気づかされ、わたしのオーストラリアでの最も苦労した経験になりました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣の違いで驚いたことは多々あったのですが、もっとも驚いたうちのひとつは、町中の店が夕方5時半頃全て閉まってしまうということでした。オーストラリアの州の中でもクイーンズランド州は特にそうなのですが、シティーセンターのショッピングモール

ですら 5 時半には閉まってしまいます。スーパーなどは平日であれば夜 9 時頃までは空いているのですが、日本で学校終わりの夕方頃から行動を開始していた私にとってはすごく衝撃的でした。夕方 5 時頃から出かけられるところと言えばレストランや映画くらいで、お買い物などしようと服屋さんなどに行っても絶対開いていません。もう一つ驚いたのがお酒の文化です。日本でも私はあまりお酒を飲む方では無かったので基準は人それぞれなのだと思うのですが、オーストラリアの大学生達はお酒を楽しむ、というより酔っぱらうためにお酒を飲みそして騒ぐことを楽しむ、というのが一般的なように思えました。日本程お店なども遅くまで開いていないためか、毎週末夕方になるとみんなが集まってパーティーが開かれ、夜遅くになると街へ繰り出しクラブやパブなどを渡り歩いていました。日本での一般的な学生の遊びとは少し違ったので、始めショックを受けたのを覚えています。更にお酒もそうなのですが、基本的に飲食物含め多くのものの値段が日本よりずっと高く感じました。コンビニでペットボトルのジュースを買おうとすると 4 ドル (340 円程) したり、サンドウィッチなら 6 ドルなど日本では考えられない値段のものもありました。更に学業面で最も驚かされそして感心したのは学生たちの発言の多さです。日本では発言を求められても躊躇してしまう学生も少なくないと思うのですが、オーストラリアでは自ら進んで手を挙げ、多くの人が他の人の意見関係なしに自分の考えを述べ、授業内で討論が繰り広げられていました。日本のグループ意識の高い文化にもたくさん良い所はあるのですが、個人主義的文化の意見をはっきりと言いたいことができ討論できる部分は、すごく良い所だと思いました。

### Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

#### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学先大学の良かった点はたくさんあります。まず第一に、他の国々の大学とは違い 1 年間を通し正規の授業の受講が可能だということです。やはりその分大変な部分も多いですが、自分の勉強のためにもなるうえに単位数も多く取得出来ますし、語学学校へ通わないでいいぶん経済的にも大きいと思います。そして第二に、勉強の環境が整っているということです。大学は留学生の人数も少なくないので、留学生へのサポートなどもきちり整っています。イングリッシュ・ヘルプといい、そのサポート専門の先生に予約を取れば、無料で提出前のエッセイやレポートの文法チェックなどを再度一緒に行ってくれたりもします。図書館などのスタッフも親切ですし、先生がたもとても親切な方々が多かったです。クラスでひとりだった留学生の私にすごく気をかけてくれる先生もいて、勉強のサポートの面で苦勞する部分はあまり無かったように思います。そして第三は、やはり友達の作りやすさです。寮に住むということもあるのですが、本当に友達作りには苦勞しませんでした。フラットタイプの寮を選ぶとキッチン、トイレとお風呂場シェアの 7 人部屋付きのアパートに住めるので、普通に毎日を送っていると現地の人達や他の国の人達と自然に話す機会も沢山あり、英語で会話をする事への自信にも繋がります。前にも述べたように寮生専用のイベントも年間を通して行われているので、沢山のの人々と出会う機会も沢山あります。私は比較的引っ込み思案なほうなので友達作りが一番の不安の一つだったのですが、私ですらすんなり友達が出来たので、その点に関しての心配は全くありません。しかし、大学の悪い点は全てのことにに関してすこしいい加減な部分があるということです。寮への

入居が決まり寮費を送った時点で正式に受理されれば領収書が届くといった内容のメールが届いたことがありました。しかし、2週間程まっても全く連絡はこず、その時点で私の出発日まで2週間を切っていました。心配になり大学側に問い合わせた所、きちんと受理されていますという内容のメールが領収書とともに送られてきました。そういうことが何回か起きたので、そこが大学唯一の悪い点だったように思います。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持って行って特に役に立ったものは、やはりノートパソコンでした。ノートパソコンがあれば部屋に直接インターネットを繋げることも出来ますし、最近ではスカイプなどといった機能を使い日本の親との連絡も国際電話代いらずに取ることが出来ます。あとは電子辞書もいいのですが、授業によっては期末試験で紙の英語辞典の持ち込みを許可してくれる先生もいらっしゃるので、普通の英語辞典などを持って行くのも時折便利かと思えます。ブリズベンはかなり大きめの街なので日常生活品などは基本的に全て現地で揃えられます。炊飯器なども買えるので、お米もいつでも食べることが出来ました。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果

私は過去に長期留学の経験があったこともあり、留学中どれだけ勉強しても自分の語学力の成長が自分ではあまり感じられず少し不安になった時期がありました。しかし、帰国する1ヶ月程前になって現地の友達から「英語がすごく自然に話せるようになったね。」と言われ、本当に嬉しかったのを覚えています。生活面でも以前のホームステイの留学とは違い寮での生活だったので、全てのことを自分ですることで大分自立心は強くなりました。全てを自分でしなければいけないという状況に追い込まれることにより、多くのことが一人で出来るようになりました。そして、オーストラリアで学んだことで最も大きなことが、自分の意見をはっきり言うということです。日本では家族以外に自分の意見をはっきり示す機会などあまりなかったのですが、寮生活、学校生活を通して、オーストラリアでは個人の意見が多く求められる社会だなということを実感しました。寮で他のフラットメイトとの問題にぶちあたった時も、「あなたはどう思うの？」と意見を求められ、なかなか答えられないでいると、相手がいらいらしているのが目に見えて分かるようなときもありました。人に合わせるというのは人思いの日本の良い文化の一つでもあると思うのですが、オーストラリアでは場面によって邪魔になってしまう時もあります。日本で育って来た私だからこそ意見を言うことに始め少し抵抗があったのですが、今では少しずつではあるのですが、意見を発するのが楽しいとも思えるようになってきました。意見を持つことにより、自分の性格なども見えてくる気もします。留学を通して私は自分という人間をもっと追求したいと思うようになりました。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも留学を考えている方がいるならば、是非挑戦してみてください。絶対損はしません。私の場合、留学中辛いことも少なくなかったですが、その分良い経験は倍になって返ってきました。不安になることも沢山あると思うのですが、実際人はもしその状況に陥ってしまえばどうにか切り抜けられるものだと思います。そしてその不安な状況を乗り越えることによって、知らない間に自分自身が強くなっているのだとも思います。留学は語学力の向上だけでなく、他にも得られるものがたくさんあります。多くの異文化の人々に出会うことで世界観も広がると思います。家族や仲のいい友達から10ヶ月程完全に離れて

しまうことで、1人で様々な事に挑戦することへの恐れも無くなると思います。そして、いざ留学することが決定し向こうで生活するようになった時は、なるべく部屋にこもらず沢山外に出てみてください。私は留学中、周りの人に本当に沢山助けられました。始めは語学力に自信が持てず周りの人に話しかけることも少し緊張したのですが、周りは私が思っている程、私の下手な英語を気にしていないようでした。そして徐々に英語力もままになってくると思うので、英語力のことは気にせず、自分のできる限りの英語を使って周りの人に話すことで自分の思いは必ず相手に伝わります。人生なんでもそうだと思うのですが、留学も楽しんだもの勝ちです。落ち込むようなことがあっても決して考え込みすぎず、どんどん前へ進んで行ってください。私は今回交換留学に参加して本当に良かったと思っていますので、もし参加を悩んでいる方がいらっしゃるのならば、留学参加を絶対お勧めします。

#### IV. 写真



寮のイベントのひとつのカレッジ・ボールというイベント前に女の子とたちがドレスアップした後の写真です。私は着替える前なのですがみんな凄く綺麗で圧倒されてしまいました。日本の大学にもこういうイベントがあったらとても楽しいと思います。



シドニーへ行ったときに訪れたボンダイ・ビーチというビーチの写真です。海がとても鮮やかな青色ですごく活気のあるビーチでした。近くにはマーケットなども開かれ、可愛いお店が沢山ありました。